

消防団たずね歩き

東北の被災地消防団を激励視察



神戸市消防協会では、東日本大震災の被災地消防団を支援するため、会員から募金を集めて岩手・宮城・福島の3県の消防協会へお見舞金をお届けすることを4月の代議員会で決定しました。

そして、7月5日、6日の両日、柵木会長（北消防団長）、伊藤副会長（灘消防団長）、北井副会長（西消防団長）が激励視察のため、被災地消防団を訪ねました。

一行は、伊丹空港から仙台空港へ、その後バスでJR名取駅へ移動、被災地の状況視察のため、名取市消防本部へ向かいました。

大震災以降、復旧・復興に奔走している中、今野新一消防長自らが、甚大な被害を受けた同市の閑上^{ゆけあげ}地区を案内してくださいました。名取市では消防職員3人、消防団員14人が亡くなり、いまだ1人が行方不明ということです。避難誘導等の活動中に大津波に飲み込まれたものと思われます。

今野消防長から、「宮城ではあまり言わないが、岩手では『津波てんでこ』という言葉がある」とお聞きしました。『津波てんでこ』とは、「津波の時だけは『てんでばらばら』、親子といえども人を頼りにせず、走れる子どもは一目散に高台に逃げ、一家全滅し、共倒れになることを防げ」という意味だそうです。

名取市の視察の後、仙台市の財団法人宮城県消防協会を、翌日6日には、2班に分かれて、盛岡市の財団法人岩手県消防協会と福島市の財団法人福島県消防協会を訪ね、お見舞金をお届けしました。

（消防団係 高濱正孝）



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

